

2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022 年 2 月 17 日

所属	商経学部	職名	准教授	氏名	大塚 茂晃
研究課題	公会計制度改革における市場規律付け機能について				
研究キーワード	公会計制度・地方債 入学前教育	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	4. 質の高い教育をみんなに	11. 住み続けられるまちづくりを	該当なし	該当なし	

1. 研究成果の概要

学長プロジェクト（プロジェクト1）を推進するように言われ、「公会計」について調査・研究を行っている。分科会において、毎月勉強会を続け、これらの分析を続けている。特に、公会計制度導入による地方債の影響をみようとしているところである。ただ、現状、十分に有意な結果が得られないため、少し苦慮している。

一方で、下記2. のように、経済学の最近の動向をまとめたものなどを出した。1つ目は、最近のノーベル経済学賞受賞論文を簡単にレビューした上で、経済学におけるデータを用いた分析について言及をした。また、そこからの本学へのインプリケーションを記した。2つ目は、本学のデータを用いて入学前教育のあり方について若干の分析を行ったものを紀要に載せた。CUC ドリルなどの e ラーニングによる学習効果についての考察を行った。その結果は、CUC ドリルの実施が入学後の SPI の成績との間に有意なものとはなっていない可能性を示し、現在の教育改革センターの入学前教育の変更・検討の足掛かりとなった。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【著書・論文（査読なし）】

単著「経済学におけるデータ利用」『CUC VIEW & VISION』No53, 2022.

単著「SPI 模試にみる大学入学前教育の成果と課題」『千葉商大紀要』第 59 巻第 3 号, 2022.

3. 主な経費

公会計制度を導入しているのかどうかを、全国数百の自治体が出しているかどうかについてのデータ収集にかかる費用に用いた。くわえて、先行研究を調査するための資料購入等に用いた。加えて、上記2. のための調査資料などの購入などにあてた。ただ、コロナの影響などで、下記4の通り当初の予定通りに十分に進められていない。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

2021 年度も、商経学部の学部運営委員会委員に学部長指名によりアサインされ、さらに教育改革センターの学部の委員をはじめ様々な委員会に所属することになり、それらの業務に忙殺された。さらに、コロナ下での授業展開で、不慣れ故の、授業準備に多くのエンフォースメントを用いてしまい、十分に研究をすることができなかった。その結果、お盆の休みを除いて、ほぼ週6日で様々な教育研究活動を行い、少しでも計画の履行を図ったが、当初計画していたテーマについての研究時間を十分に確保するに至らなかった。